（H 提案）

（様式２） 技術提案書
No. H
道路交差点より北東角面を望む
北側立面図
西側立面図
道路交差点上部より北東角面を望む
平成１７年度（仮称）ぬまづ健康福祉プラザ基本・実施設計業務
完成外観イメージ図

（様式２） 技術提案書
No. H
大きなひとつ屋根の下に、みんなが集る
「健やかに」「安心して」「福祉」生きるという願いを実現するために、人が、家族が、集る場所です。
そこは近津の千本松のように、広く枝を広げた幹がつくる木陰のような場所でもあります。
この施設は、大きな2つの目的の場でつくられています。
・交流（communication）の場 と ・活動（action）の場 です。
2つの場に集い活動する人々の気持ち（精神（こころ））も、市全体にまで広げるためには、2つの場と街とを結ぶ空間が必要と考えます。
街なかの広場（プラザ）のように、往来する人たちが気軽に立寄りたくなる場です。
私たちが提案は、立体的に街に向って展開する広場プラザを持つ施設です。
市民がここに立寄り、集った人たちと自然な交流を生み、施設内の活動に飛躍するプラザをつくりだします。
大屋根
プラザ
家族
施設の基本イメージ
3.環境・景観への配慮について
3-1.教育ゾーンに所在する特有の活かし方
・教育ゾーンの軸となる学園通り沿に向って、広い庇を構える低層施設です。
・施設内部の市民の交流と活動を、往来・くらしに身近に感じてもらうことを狙います。
・また、施設正面を幅広くとることで、交流・活動の様子を積極的に街・社会へ表現できると考えます。
・建物外周を超格子ルーバーが、施設内部と周辺の景観と柔らかく馴じませます。
3-2.周辺との調和するデザインについて
・建物周囲に超ら格子ルーバーが、街を往来する人に建物の圧迫感を与えません。
・低層（4階）の建物は、低層建物が多い周辺の街並みと調和します。
・住宅地側は広いプライバシーを保てる窓とし、必要以上の空間にを開けません。
・建物周囲を超格子ルーバーログプルスキンを超ら、近隣住民との良心いを図ります。
3-3.導入施設の配置について
・免震構造建物として、将来後の早期復旧と施設機動を可能にします。
・利用施設は各階において、建物中央の吹抜けを中心にして展開されます。
・吹抜けによって施設の全体への視認性が極めて良いことが特徴です。
・吹抜けによる視認性の良さが、利用者の活動の安全性を生みだします。
・多目的ホールを3階、4階にて二層吹抜けとし、自然採光・通風換気が良い配置とします。
・多目的ホールは、天井を高く確保し、球技スポーツ等の多目的利用に配慮します。
・ギャラリー・活動室を学園通り沿に面して配置し、往来する人々が気軽に立寄れる場所とします。
・各階の交流・活動諸室を学園通り側に配置し、往来する人々への施設内の交流・活動の様子をアピールします。
3-4.緊急・安全対策に配慮した救急車両の進入路計画
・救急車両は主幹市道からの進入を基本としています。
・夜間救急車両の進入口は敷地西よりとし車側近隣住宅より離れた位置とします。
・夜間救急の緊急車両の敷地入口と進入路を、一般救急患者の車両の進入路と分離し、動線の交錯を無くします。
・一般救急患者の敷地内の歩行動線は、救急車両の進入路と分離し、患者と車の交錯を無くします。
北側立面図
西側立面図
4.敷地の有効活用とコスト（イニシャル・ランニング）縮減に対する考え方
4-1.敷地の有効活用についての配慮事項（配置計画）
・学園通り側に多目的施設を配置
・学園通り沿住宅する市民の来館の利便性を重視
学園通りの通行者への施設活動をアピール（アクティビティ）
・夜間救急医療センターを1階敷地中央に配置
「学園通り」と北側市道の双方から車で寄付きやすいことに配置
4-2.イニシャルコスト縮減への考え方
・シンプル＋コンパクトな建築
・シンプル：機能的な施設構成であり、コンパクト：無駄がない施設形態であることを基本としています。
・シンプル且つコンパクトな造り方は、利用者の効率の良い移動を実現します。
・シンプルな建物構成により建設費を抑えるとともに、ランニングコストも抑制します。
・建物形態をコンパクトにまとめることで、夏の太陽による熱負荷を抑え、冬の北西の季風により室内の暖かさが奪われるのを防ぎます。
・バランスの良いプレファブ工法導入により、工期に関係するコストを抑え、高品質化を図ります。
・施設のコンパクト化と柱スパンの長大化により、杭（想定長さ約20m）を削減ない本数に抑えます。
・低層階の計画により工期短縮を図り、工事コストの経費を抑える計画とします。
・免震基礎に係るコストは、免震構造の特性を利用して地上建物構造をスリム化を図り、コスト増の割合を抑える計画とします。
・安全且つ消火設備が簡単である自走式駐車場を採用します。
4-3.ランニングコスト縮減への考え方
第一に、無駄がなくて、使いやすいそして長く使える施設を目指します。
・ダブルスキン
窓や外壁のさらに外側を超格子で覆い、夏の太陽による熱負荷を遮り、冬の北西の季風により室内の暖かさが奪われるのを防ぎます。
・バルコニーを活用して、設備機器・配管の更新や日常保守点検が容易になるようにします。
・施設機能の変更に伴う、機器の更新・増設に容易に対応できます。
・屋上階に給排気口スペースを設定し、建物の骨組みに新たな穴を開けることなく給排気設備の増築を可能とします。
・維持管理費
日常保守点検：自走式立体平面駐車場の採用により車庫機械保守費も発生させません。
定期保守点検：屋上防水を保護する床と緑化により防水改修の期間を長期化（30年間）
外壁：外装タイル貼りによる壁面補修期間を長期化（約40年間）
空調設備機器の更新期（約15年～20年）の工事経費も削減
各階の駐車場利用により設備機器や交換を頻繁な作業とします。
各階の駐車場利用により機器や交換部品の搬出入経費を削減
消防設備：自走式駐車場により、装備する消火器を最低にします。
（自然換気型）自走式駐車場により粉末消火器設置とし、（屋内閉鎖型）自走式駐車場又は機械式駐車場の泡・ガス消火より廉価な維持管理とします。
・光熱費
自然採光と光センサー＋自動調光照明を併用
廊下＋トイレ等の人感知センサー＋自動点滅照明を併用
各室当たりの年間照明電力量（昼間時間全稼動とした場合）の30%低減を目標
換気設備に全熱交換器採用により、空調に係る各室当たりの年間熱負荷及び動力エネルギー量を低減
ダブルスキンシステム立て一般断面
室内外温熱環境の考え方
室内の自然換気の考え方
平成１７年度（仮称）ぬまづ健康福祉プラザ基本・実施設計業務
各階平面ダイヤグラム（２）